

長野県立美術館

NAM コレクション 2024 第V期

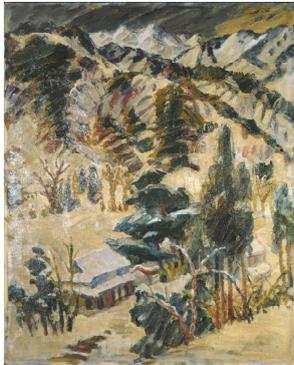
信州出身の作家たちや、信州の風景が描かれた作品を中心に形成された長野県立美術館のコレクションから、一年を通して、洋画、日本画、工芸等さまざまなジャンルの収蔵品を展示します。

■NAM コレクション 2024 第V期

第V期では、前衛芸術が生まれた時代を、信州にスポットを当てて総観します。

洋画コレクションでは、昭和前期（昭和20年以前）に、二科会とともに在野の有力な洋画団体であった独立美術協会（昭和元年創立）と国画会において、信州にゆかりのある作家たちの作品を紹介します。戦後の信州では国画会（昭和3年創立）で洋画界の重鎮となる宮坂勝らが活躍する一方、フォーヴィスムの傾向を示した独立美術協会（昭和5年創立）も根づきました。

また、農民美術や民藝といった民衆的な工芸が展開する場となった信州からは、工芸を純粋美術として確立しようとする潮流も生まれました。その立役者のひとりである杉田禾堂（すぎた かどう）は、美術工芸家から出発しますが、量産品を視野に入れた工芸の実用性をも唱え、戦後開花する日本工業デザインの先駆者となります。同様に終戦後まもなく、前衛芸術の影響を受けて変貌を遂げたのが陶芸です。今期では、日本におけるオブジェとしての前衛陶芸の端緒を開き、海外に進出した現代陶芸の第一人者であり続ける林康夫を、動画や関連資料も交えて特集します。



宮坂勝《雪》1947（昭和22）年



杉田禾堂《青銅三足香炉》
1955（昭和30）年



水上民平《裏の沢の春》1967（昭和42）年



林康夫《Reflection》1991（平成3）年

＜主な展示作品＞

- ・宮坂勝《雪》1947（昭和22）年
- ・水上民平《裏の沢の春》1967（昭和42）年
- ・杉田禾堂《青銅三足香炉》1955（昭和30）年
- ・林康夫《Reflection》1991（平成3）年

【会期】 2025年2月27日（木）～5月6日（火・休）

※休館日＝水曜日

【会場】 長野県立美術館 2F コレクション展示室

【開館時間】 9：00～17：00（展示室入場は16：30まで）

【観覧料】（本館・東山魁夷館共通）

一般700円、大学生及び75歳以上500円、

高校生以下又は18歳未満無料

【関連イベント】

■ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

2025年4月19日（土）14：00～

会場：長野県立美術館 2F コレクション展示室

参加費無料（要観覧券、事前申込不要）

※諸般の事情により、展示会の内容などに変更が生じる場合があります。

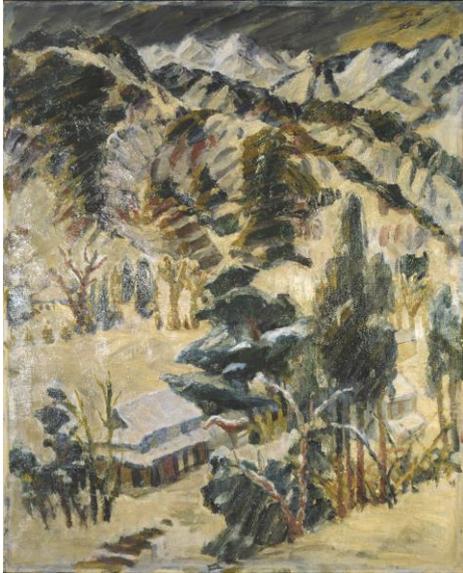
■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp

【広報用画像】

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入の上、メールまたは FAX にてお申込み下さい。



①宮坂勝《雪》1947（昭和22）年



②水上民平《裏の沢の春》1967（昭和42）年



③杉田禾堂《青銅三足香炉》1955（昭和30）年



④林康夫《Reflection》1991（平成3）年

<別紙>

長野県立美術館 行 メール: nam-pr@naganobunka.or.jp FAX: [026-232-0050](tel:026-232-0050)

広報用画像申込書

長野県立美術館 NAM コレクション 2024 第V期

会期: 2025年2月27日(木) ~ 5月6日(火・休)

■本展覧会の広報用画像を用意しております。ご希望の画像の左欄に○をつけていただき、必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてお申込み下さい。写真はデータにてお送りします。

○をつけて ください		番号	画像名
	①		宮坂勝《雪》1947(昭和22)年
	②		水上民平《裏の沢の春》1967(昭和42)年
	③		杉田禾堂《青銅三足香炉》1955(昭和30)年
	④		林康夫《Reflection》1991(平成3)年

●貴社についてお知らせください

貴社名 / 媒体名(雑誌、番組名等)

ご担当者名 / 所属部署

ご住所 〒

電話 / FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日 () に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご惠贈いただければ幸いです。